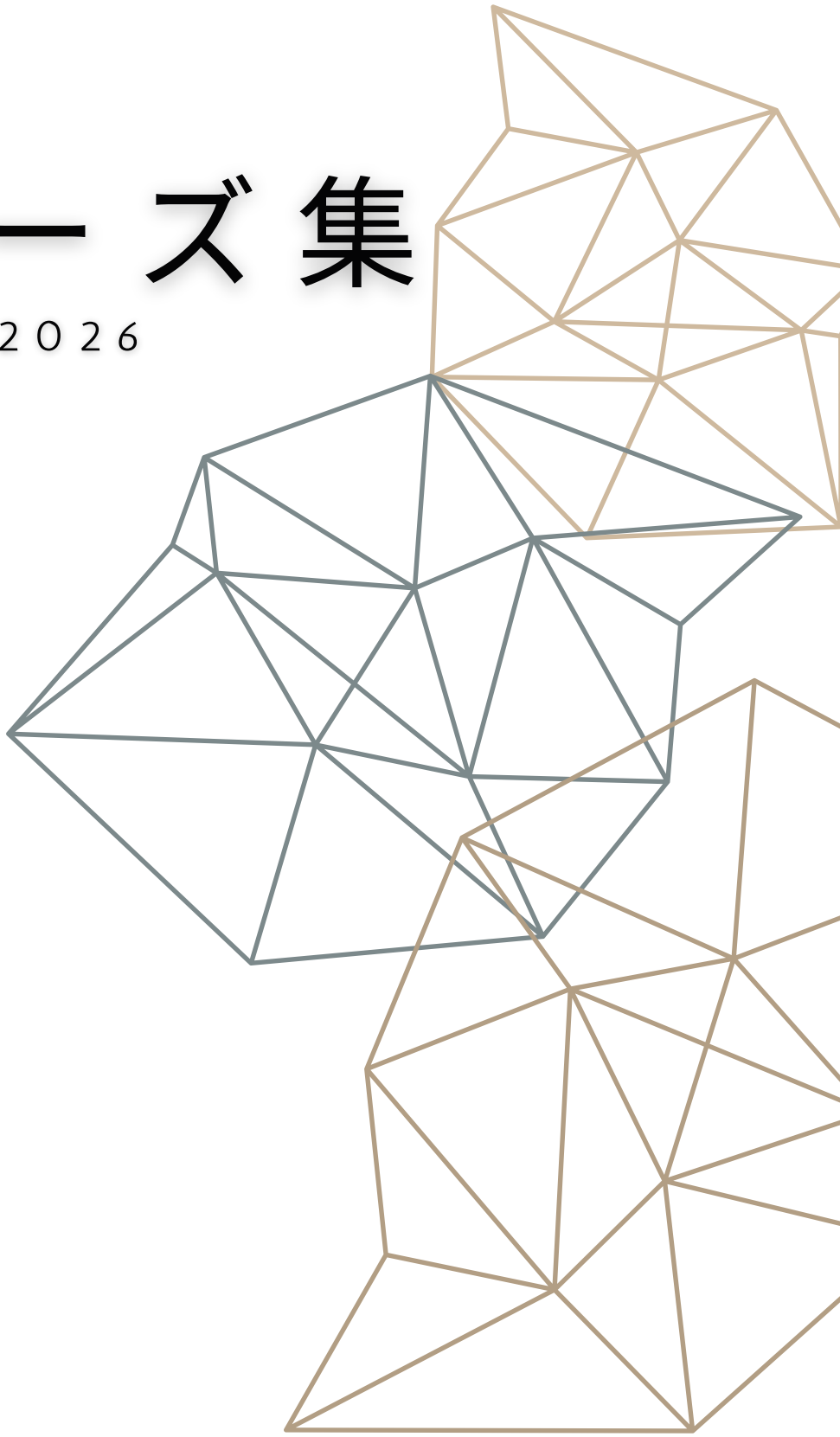
研究シーズ集

Research Seeds 2026



公立大学法人

大分県立看護科学大学

Oita University of Nursing and Health Sciences.

シーズ集　目次

頁

対話を通した学びのあり方について　1
人間関係学研究室　助教　秋本　慶子
看護職の態度価値教育、地域公衆衛生看護に関する研究
大分県立看護科学大学　学長　麻原　きよみ
小児期の予防接種・小児保健に関する研究　2
小児看護学研究室　講師　足立　綾
フットケアやリハビリテーション看護に関する研究
看護アセスメント学研究室　助教　安部　涼子
地元創成に関する看護研究　3
看護管理学研究室　准教授　荒木　章裕
災害看護やフィジカルアセスメントに関する研究
看護アセスメント学研究室　教授　石田　佳代子
救急看護師のマネジメント能力に関する研究　4
基礎看護学研究室　准教授　石丸　智子
クリティカルケア領域における終末期ケアと支援体制の構築
成人看護学研究室　助教　井上　陽士
運動に関する研究とデータ解析　5
健康運動学研究室　教授　稲垣　敦
女性の意思決定に関する研究
助産学研究室　助手　植木　美穂子
看護師による医療用画像のアセスメントに関する研究　6
看護アセスメント学研究室　助教　内倉　佑介
医療放射線による発がんリスクに関する研究
環境保健学研究室　准教授　恵谷　玲央
親子、家族を支えるシステムに関する研究　7
看護管理学研究室　助教　大矢　七瀬
欠測データに対する統計解析手法の開発
健康情報科学研究室　助教　岡田　悠希
放射線のリスクを生学的に明らかにするための研究　8
環境保健学研究室　准教授　小嶋　光明
子どもから高齢者の健康支援に関する研究
地域看護学研究室　准教授　小野　治子

高齢者への倫理的な看護実践に関する研究 9
老年看護学研究室 教授 小野　美喜
保健師教育や人材育成、健康づくりに関する研究
地域看護学研究室 特任教授 川南　公代
医療的ケア児の生活や訪問看護の質向上の研究 10
小児看護学研究室 教授 草野　淳子
在日外国人の感染症対策に関する研究、外国人看護スタッフとの協働に関する研究
国際看護学研究室 教授 桑野　紀子
地域生活者をミマモル（看護る）システム 11
成人看護学研究室 教授 古賀　雄二
地域や臨床における精神看護に関する研究
精神看護学研究室 准教授 後藤　成人
心不全再入院率と社会的決定要因の関連に関する研究 12
基礎看護学研究室 助手 後藤　壮登
環境中のアレルギー増悪物質の探索
生体反応学研究室 准教授 定金　香里
咳嗽力の加齢性変化に関する研究 13
看護研究交流センター 助教 佐藤　愛
ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ動画とAIを用いた立ち上がり動作の定量評価技術の開発・検証
成人看護学研究室 講師 佐藤　栄治
看護師・看護学生のための情報倫理学習支援 14
健康情報科学研究室 教授 品川　佳満
地域で創る多文化共生 ～外国人労働者の健康支援～
国際看護学研究室 学内講師 篠原　彩
保健活動や災害や感染症などの健康危機管理 15
地域看護学研究室 講師 首藤　佐織
嚥下機能低下を早期発見し、改善、予防を目指した研究
基礎看護学研究室 教授 秦　さと子
こころの健康 ーリカバリー・マインドフルネス・食 ー 16
精神看護学研究室 教授 杉本　圭以子
地域の健康づくりに関する研究
地域看護学研究室 助教 高木　優衣
シャント血管とシャント血流音の関連を研究しています 17
基礎看護学研究室 学内講師 田中　佳子
がん患者のセルフケアに関する研究
小児看護学研究室 助手 堤　恒貴

骨代謝疾患の予防および難治性骨折の新規治療法開発 18
生体科学研究室 学内講師 坪内　優太
男性の育児休業に関する研究
母性看護学研究室 助教 徳丸　由布子
高齢者看護および看護教育に関する研究 19
老年看護学研究室 学内講師 中釜　英里佳
周産期を中心に女性の健康への看護を研究しています
母性看護学研究室 講師 永松　いずみ
救急・集中治療における家族支援、看護職のキャリア形成に関する研究 20
NP研究室 准教授 西開地　由美
診療看護師（NP）の臨床的意思決定に関する研究
NP研究室 講師 西田　裕子
臨床試験の統計に関する支援や方法論の研究 21
健康情報科学研究室 准教授 野津　昭文
妊産婦用全機能一体型の骨盤矯正アンダーウェア開発
母性看護学研究室 教授 濵　耕子
骨分化の機序解明 22
生体科学研究室 教授 濱中　良志
マイナス1歳からの皮膚を科学し、Well-beingな未来へ！
助産学研究室 教授 樋口　幸
妊産婦のレジリエンスに関する研究 23
助産学研究室 講師 姫野　綾
中小規模病院等の看護管理者を支援する研究
看護管理学研究室 教授 福田　広美
精神科領域で働く看護職者のウェルビーイング 24
精神看護学研究室 助手 外池　桃子
性差に着目した向老期世代の認知症予防行動に関する研究
老年看護学研究室 准教授 堀　裕子
放射線皮膚炎に対するスキンケア効果の研究 25
成人看護学研究室 助教 水田　恵子
看護情報（データの利活用やICT健康教育）に関する研究
看護アセスメント学研究室 准教授 三苫　美和
英語イントネーションと英文学の研究 26
言語学研究室 准教授 宮内　信治
高齢者自殺予防に関する包括支援の研究
社会看護学研究室 教授 持田　恵理

中小規模病院の看護管理者と地域の看護ネットワーク 27
看護管理学研究室 助教 矢野　亜紀子
環境因子の雄性生殖機能への影響に関する研究
生体反応学研究室 教授 吉田　成一
臨床における看護倫理に関する研究 28
成人看護学研究室 助教 吉田　嘉子
子ども、保護者、学校に係る方との協働
人間関係学研究室 教授 吉村　匠平

対話を通した学びのあり方について



秋本　慶子　　人間関係学研究室
AKIMOTO　Keiko　　助教
https://researchmap.jp/0531

研究内容と実践活動

　アクティブラーニングに関する研究。授業における主体的な学びや、対話を通した学習のあり方について。

産学連携の可能性

　教育に関する研修や講演への協力、授業方法に関する意見交換、教育実践に関する共同検討

看護職の態度価値教育、地域公衆衛生看護に関する研究



麻原　きよみ　　大分県立看護科学大学
ASAHARA Kiyomi　　学長
https://researchmap.jp/read0193794

研究内容と実践活動

　今まで体系化されていなかった看護職（看護師・保健師・助産師）の態度・価値教育（基礎教育・現任教育）について、ヘルスヒューマニティーズを基盤として、人文学・芸術を活用しながら人間理解と人間性を育む教育プログラムを研究しています。具体的には、当事者や医療者の語り、闘病記、小説、絵画、映像などを活用します。

　また、地域看護・公衆衛生看護に関する研究を行っています。

産学連携の可能性

・看護職の現任教育として、態度・価値教育プログラムを実施します。
・地域看護・公衆衛生看護に関する研究や実践の支援ができます。

小児期の予防接種・小児保健に関する研究



足立　綾　　小児看護学研究室

ADACHI Aya　　講師

https://researchmap.jp/adach

研究内容と実践活動

小児期の予防接種の意思決定は保護者に委ねられていますが、保護者は多くの困難感や不安を抱えていると報告されています。小児期の予防接種に関する保護者および看護職の支援や妊娠期からの予防接種教育に関する研究をしています。

産学連携の可能性

・小児期の予防接種に関する保護者支援や妊娠期からの予防接種教育
・基礎疾患がある子どもの予防接種支援

フットケアやリハビリテーション看護に関する研究



安部　涼子　　看護アセスメント学研究室

ABE Ryoko　　助教

https://researchmap.jp/aber

研究内容と実践活動

フットケアやリハビリテーション看護に関する研究を行っております。診療看護師が活動することにより、どのような役割や効果があるのかを研究しています。

産学連携の可能性

フットケアやリハビリテーション看護に関連したケアの仕組みづくりや自助具の作成などの研究協力が可能です。

地元創成に関する看護研究



荒木　章裕
ARAKI Akihiro

看護管理学研究室
准教授

https://researchmap.jp/a-araki

研究内容と実践活動

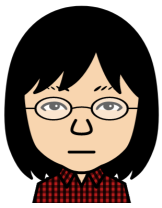
訪問看護ステーションの安定した経営は、利用者のみならず、地域住民の皆様にとっても有益であると言われています。安定した経営にはどのような行動が関連しているのかを調査し、経営者・管理者の皆様に還元できるような研究を行っています。

そのほか、介護予防に関する調査・実験を行っています。

産学連携の可能性

・訪問看護ステーションの経営、特に中山間地域における安定した経営方法を一緒に考え支援いたします。
・フレイルまたはプレ・フレイルの方の抽出や、介護予防策の提案などが可能です。
・福祉器具のモニター調査等の共同研究が可能です。

災害看護やフィジカルアセスメントに関する研究



石田　佳代子
ISHIDA Kayoko

看護アセスメント学研究室
教授

https://researchmap.jp/2a0s1s8e4s2s0

研究内容と実践活動

災害看護に関する研究では、大規模災害時における円滑な医療活動のために、医師との協働的・効率的な役割分担に基づく専門的な能力など、新たな看護師の役割について検討しています。また、看護におけるフィジカルアセスメントに関する研究では、看護師のアセスメント能力の向上のために、対象者の身体状態を的確にアセスメントする教育方法などについて検討しています。

産学連携の可能性

災害医療に関する教育や研修に利用できる教材開発などの研究が可能です。

救急看護師のマネジメント能力に関する研究



石丸　智子
ISHIMARU Tomoko
基礎看護学研究室
准教授

https://researchmap.jp/ishi-maru

研究内容と実践活動

救急看護師のマネジメント能力測定尺度の開発や、ICTを用いた基礎看護技術教育に関する研究を行っています。

また、消防局にご協力いただき、地方の救急搬送の現状について研究を行いました。

産学連携の可能性

救急医療・看護に関することについて、今後も研究を続けていこうと思っています。

クリティカルケア領域における終末期ケアと支援体制の構築



井上　陽士
INOUE Yoji
成人看護学研究室
助教

https://researchmap.jp//inoue-yoji2025

研究内容と実践活動

集中治療、救急医療などのクリティカルケア領域に関する終末期ケア、意思決定支援を研究してきました。またクリティカルケア領域で実際のケアに活かせるよう、教育そして支援体制を検討、構築に取り組んでいます。

産学連携の可能性

意思決定支援には日ごろからの「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング：ACP）」がとても重要となってきます。ACPに関して地域のお住いの方、医療機関や介護施設などでの困りごとについて支援できます。

運動に関する研究とデータ解析



稲垣　敦　　健康運動学研究室
INAGAKI Atsushi　　教授

https://researchmap.jp/read0197783

研究内容と実践活動

学生と共に毎年3000～6000名に健康・体力チェックを行っています。筑波大学で陸上競技部のコーチをしました。運動のコツの研究をしました。お元気しゃんしゃん体操（大分市の看護予防運動）、めじろん元気アップ体操（大分県の介護予防運動）を研究・開発しました。スポーツ救護ナース、介護予防運動指導員、体力チェックサポーターの養成をしました（大分市、大分県、文部科学省）。リハビリテーション機器を研究・開発しました（東九州メディカルバレー）。森林セラピー、温泉運動、登山の研究や教室をしました（大分市、別府市、大分県）。保健師活動支援システムを開発しました（通産省）。姫島村住民の健康長寿の調査研究をしました（厚生労働省）。新しい時系列解析法、多変量解析法、ファジィ解析法等を開発しました。スパコンで数値解析や大規模データを解析をしました。

産学連携の可能性

イベント等で健康・体力チェックを行います。健康体操、健康運動、運動機器、運動に関係する日用品等を研究・開発します。新しい運動や種々の活動の健康効果を評価します。調査データの集計・解析、当該課題に合ったデータ解析法の開発やプログラミングを行います。

女性の意思決定に関する研究



植木　美穂子　　助産学研究室
UMEKI Mihoko　　助手

https://researchmap.jp/awako-1129

研究内容と実践活動

女性の一生における意思決定の支援を意思決定ツールを用いたり、発達段階、心理、生育環境などから分析、解明し、寄り添いながら自己実現を目指す支援を見つけて行きたいと思っています。

産学連携の可能性

プレコンセプションケア、妊娠、出産、育児と女性特有の意思決定の支援または、決められない事情を探求、理解するための研究を予定しています。

看護師による医療用画像のアセスメントに関する研究



内倉　佑介　　看護アセスメント学研究室
UCHIKURA Yusuke　　助教
https://researchmap.jp/y-utikura

研究内容と実践活動

　看護師による医療用画像を用いたアセスメント能力の向上と医療用画像に関する教育の検討をしています。

産学連携の可能性

　看護師による医療用画像を用いたアセスメントや看護実践に関する内容について研究をしていきたいと思います。

医療放射線による発がんリスクに関する研究



恵谷　玲央　　環境保健学研究室
ETANI Reo　　准教授
https://researchmap.jp/Etani_Reo

研究内容と実践活動

　医療放射線による発がんリスクについての研究
白血病モデルマウスを用いて、放射線による発がんリスクや発がんメカニズムについて研究を行っています。

産学連携の可能性

　低線量放射線による生物影響の解明に向けた動物実験・研究、また医療放射線防護に関する研究が可能です。

親子、家族を支えるシステムに関する研究



大矢　七瀬
OYA nanase
https://researchmap.jp/n-oya

看護管理学研究室
助教



研究内容と実践活動

地域で生活する妊産婦、乳幼児、家族を支える活動や社会システムについて興味があります。未就学児を育てる家庭の性教育や、医療機関・行政・企業と医療者が連携した妊娠・子育て支援の在り方や、助産師が運営する周産期訪問看護ステーション等に着目して研究をしてまいりたいと思っています。

産学連携の可能性

子育て支援の在り方に関する研究を行っていきたいと考えています。

欠測データに対する統計解析手法の開発



岡田　悠希
OKADA Yuki
https://researchmap.jp/y-okada1996

健康情報科学研究室
助教



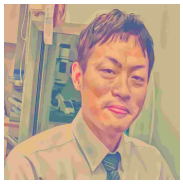
研究内容と実践活動

欠測データに対する統計解析手法について研究しています。
特に、観測対象の脱落などによって生じる単調欠測データに基づく判別分析について研究しています。

産学連携の可能性

・数学や統計学についての講義や、統計解析についてのご相談があればお任せください。

放射線のリスクを生学的に明らかにするための研究



小嶋　光明　　環境保健学研究室
OJIMA Mitsuaki　　准教授
https://researchmap.jp/Miojima

研究内容と実践活動

原子力災害に伴う低線量・低線量率放射線の長期被ばくによる健康リスクを生学的に明らかにするための研究に取り組んでいます。また、上記の研究活動と共に「看護職の原子力・放射線教育のためのトレーナーズトレーニング」を行なってきました。

産学連携の可能性

培養細胞や実験動物を用いて、１）低線量放射線の人体影響、２）放射線発がんのメカニズムに関する研究協力が可能です。また、医療や原子力災害時に必要な放射線に関する知識・技術を看護職者に教育支援することも可能です。

子どもから高齢者の健康支援に関する研究



小野　治子　　地域看護学研究室
ONO Haruko　　准教授
https://researchmap.jp/onoharuko

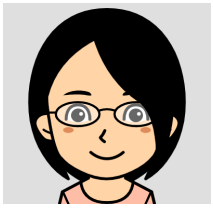
研究内容と実践活動

子どもから高齢者における健康行動、生活習慣に関する研究をしています。特に、地域おける経年的な健診結果や医療費のデータを用いた研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

・健康なまちづくりに関する研究
・生活習慣等の健康行動に関する研究

高齢者への倫理的な看護実践に関する研究



小野　美喜
ONO Miki
老年看護学研究室
教授

https://researchmap.jp/read0197863

研究内容と実践活動

高齢者の看護・介護の実践場面で、高齢者の意思を尊重した医療・看護提供について研究しています。主に高齢者をケアする看護師が抱える倫理的問題や解決行動を調査研究し、看護の倫理的思考の強化に取り組んでいます。

産学連携の可能性

高齢者ケアの場で、看護・介護の倫理的課題の解決のための研修、事例検討が提供できる可能性があります。

保健師教育や人材育成、健康づくりに関する研究



川南　公代
KAWAMINAMI Kimiyo
地域看護学研究室
特任教授

https://researchmap.jp/ki_kawa

研究内容と実践活動

これまで、保健師教育や保健師の人材育成、事例検討会、住環境に関する研究などに取り組みました。今後も、引き続きこれらの研究に取り組みます。

産学連携の可能性

・行政機関における保健師の人材育成の研修や研究への支援が可能です。

医療的ケア児の生活や訪問看護の質向上の研究



草野　淳子
KUSANO Junko
小児看護学研究室
教授

https://researchmap.jp/kusano

研究内容と実践活動

医療的ケアが必要な在宅療養児や小児の訪問看護について研究しています。過去には、在宅療養児の両親の心理状況や医療的ケアを習得する過程について、対象者にインタビューして特徴的な変化をまとめました。そのほかに、在宅療養児が療養しやすいように訪問看護の質向上に努めています。

産学連携の可能性

訪問看護ステーションや障害児(者)支援事業所との連携を行い、障害児が地域で生活しやすい制度等を推進する活動ができると思います。

在日外国人の感染症対策に関する研究、外国人看護スタッフとの協働に関する研究



桑野　紀子
KUWANO Noriko
国際看護学研究室
教授

https://researchmap.jp/kangok

研究内容と実践活動

医療制度や健康行動が日本と異なる国・地域出身の人々の感染症対策について、特に、結核高蔓延国から来日した人々の結核に対する認識やヘルスリテラシーについて研究しています。

また、外国人患者の受け入れ、外国出身の看護師・介護士との協働における課題について、看護職の異文化リテラシーの側面から研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

・地域や学校、企業等が行う在日外国人の方を対象とした健康教育や健康相談に協力が可能です。

・在日外国人の健康支援に関する調査や研究の相談に応じます。

地域生活者をミマモル（看護る）システム



古賀　雄二　　成人看護学研究室
KOGA Yuji　　教授
https://researchmap.jp/yuji-koga2020

研究内容と実践活動

急性期患者（手術を受けたり急病で入院した方）や高齢者を対象として、神経認知障害群（せん妄、認知症、軽度認知障害）のモニタリング（連続観察）を簡便に行う研究を行ってきました。最近は、スマートフォンのアプリケーションを用いたモニタリング方法を開発・検証しています。

産学連携の可能性

地域における生活者の生活上の困りごと・思い（支援ニーズ）をモニタリングできると、ケア市場の発見・開発につながると考えます。生活（眠る、うごく、食べる、排泄する、伝える、楽しむなど）上の変化に気づき、支えるミマモル（看護る）システムの開発について、情報工学分野などの専門家と連携できればと思います。

地域や臨床における精神看護に関する研究



後藤　成人　　精神看護学研究室
GOTO　Naruto　　准教授
https://researchmap.jp/naruto_goto

研究内容と実践活動

地域では保健師の方々と協力し、自殺対策におけるゲートキーパー（自殺念慮者に気づき、声をかけ見守る人々）の養成に関する効果評価を行ったり、アディクション（アルコール依存や薬物依存など様々な依存症）を抱える当事者や家族の支援を行っています。臨床では現場で働く精神科看護師の方々と協力して、隔離や拘束が早期に解除できるようなアセスメントツールの開発を行っています。

産学連携の可能性

自殺リスクの高い人や依存症を抱える人達への支援に関することや、臨床現場での精神科的な困りごと（スタッフのサポートや対象者への関わり方など）に関する支援などに協力できます。

心不全再入院率と社会的決定要因の関連に関する研究



後藤　壮登　　基礎看護学研究室
GOTO Masato　　助手
https://researchmap.jp/goto-masato

研究内容と実践活動

心不全をもつ方の再入院率と社会的決定要因の関連性を明らかにし、再入院を予防する評価指標の構築を検討しています。

産学連携の可能性

心不全をもつ方の再入院予防（特に社会的決定要因に関連した）に関する研究協力等が可能です。

環境中のアレルギー増悪物質の探索



定金　香里　　生体反応学研究室
SADAKANE Kaori　　准教授
https://researchmap.jp/Kaori_Sadakane

研究内容と実践活動

環境中の化学物質や粒子状物質がアレルギー性喘息やアトピー性皮膚炎に及ぼす増悪作用を、動物実験により調べています。これまで黄砂やディーゼル排気微粒子、可塑剤、消毒薬などについて調べてきました。また、大分県特産物を用い、アレルギーを軽減する飲料や食品の研究開発を産学官との共同研究で行なったことがあります。

産学連携の可能性

アレルギーを悪化させる恐れのある物質やアレルギーを軽減させる食品の影響評価が可能です。

咳嗽力の加齢性変化に関する研究



佐藤　愛
SATO Ai
看護研究交流センター
助教
https://researchmap.jp/satoai

研究内容と実践活動

高齢者の誤嚥性肺炎を予防することが、健康長寿につながると考えています。そのため、誤嚥を予防する方法として咳嗽（せき）に着目し、咳嗽の強さの加齢性変化とその関連要因を明らかにする研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

地域在住高齢者を対象とした健康教育、及び、咳嗽力や口腔機能に関する研究協力が可能です。

ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ動画とAIを用いた立ち上がり動作の定量評価技術の開発・検証



佐藤　栄治
SATO Eiji
成人看護学研究室
講師
https://researchmap.jp/sato-e

研究内容と実践活動

立ち上がり動作は、座面から殿部が離れた瞬間に身体重心を支持基底面に移動する必要があるため、力学的には難易度が高い動作になります。

現在は、AIを用いた運動学的解析システムの構築に取り組んでいます。具体的には、関節角度などを定量化し、客観的評価を可能とする技術の開発を進めています。さらに、臨床現場で活用可能な簡便かつ低コストな動作評価手法の確立を目指しています。

産学連携の可能性

・立ち上がり動作の定量評価に基づく自立支援
・臨床現場への実装を見据えた転倒予防やフレイル評価への応用
・医療機関・企業との共同による評価システムや支援ツールの開発

看護師・看護学生のための情報倫理学習支援



品川　佳満
SHINAGAWA
Yoshimitsu

健康情報科学研究室
教授

https://researchmap.jp/yoshimitsu_shinagawa

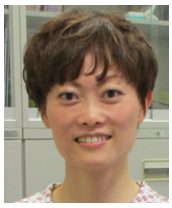
研究内容と実践活動

現在、看護基礎教育の段階からICT活用能力を強化することが求められています。しかし、単に活用能力を身に付けるだけでは、情報漏えいなどの事故を引き起こしてしまう危険性があります。看護職者は、患者の機微な個人情報を取り扱うため、正しく情報を取り扱うための情報倫理を身に付けることも必要です。現在、看護師・看護学生を対象とした情報倫理教育に関する研究や情報倫理学習支援サイト（https://www.kango-jorin.com/）の構築を行っています。

産学連携の可能性

情報倫理教育に利用できる教材開発などが可能です。

地域で創る多文化共生 ～外国人労働者の健康支援～



篠原　彩
SHINOHARA Aya

国際看護学研究室
学内講師

https://researchmap.jp/ayashinohara

研究内容と実践活動

在留外国人労働者の皆さんの健康課題について研究を行っています。特に女性技能実習生の皆さんが心身ともに健康で働くことができる支援について監理団体や実習施設のご協力を得て調査研究を続けています。外国人労働者の皆さんが地域の中で健康に生活できるシステム作りにつなげていきたいと考えています。

産学連携の可能性

在留外国人労働者の皆さんへの健康教室の実施など、外国人労働者の健康維持に関するサポート、地域共生社会を創造する活動を一緒に考え支援いたします。

保健活動や災害や感染症などの健康危機管理



首藤　佐織
SHUTO Saori
地域看護学研究室
講師
https://researchmap.jp/shuto-saori

研究内容と実践活動

さまざまな分野の保健活動や災害や感染症などの健康危機管理活動を実践してきました。

産学連携の可能性

地域の健康に取り組む団体や行政機関の保健師の支援が可能です。

嚥下機能低下を早期発見し、改善、予防を目指した研究



秦　さと子
SHIN Satoko
基礎看護学研究室
教授
https://researchmap.jp/sshin

研究内容と実践活動

健康長寿には、食べる機能（摂食嚥下機能）の維持が重要と考えています。そのため、嚥下障害が顕在化する前の予備能の低下が生じている時点で発見できるように予備能を可視化する方法、および予備能低下を改善する方法の開発・検証に取り組んでいます。予備能低下の改善方法については、取り組みやすさを重視して、身近な食材や市販品、単純な運動法などに着目した研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

・嚥下機能に関する研究及び支援が可能です。
・生活を支援する技術や診療の補助技術に関連する研究および支援が可能です。

こころの健康 ーリカバリー・マインドフルネス・食 ー



杉本　圭以子
SUGIMOTO Keiko
精神看護学研究室
教授

https://researchmap.jp/sugimotok

研究内容と実践活動

地域で生活する方のこころの健康について研究しています。精神科デイケアで実施する心理教育プログラムの効果、更年期女性の更年期症状とマインドフルネス、どのような食事がこころの健康につながるかなどについて調査研究しています。

産学連携の可能性

マインドフルネス実践とこころの健康に関する支援（IMTAマインドフルネス指導者資格）、食とこころの健康に関する活動の支援ができます。

地域の健康づくりに関する研究



高木　優衣
TAKAKI Yui
地域看護学研究室
助教

https://researchmap.jp/y.takaki

研究内容と実践活動

行政保健師としてさまざまな分野の保健活動に取り組みました。

産学連携の可能性

地域住民の健康づくりについて一緒に考えます。

シャント血管とシャント血流音の関連を研究しています



田中　佳子
TANAKA Keiko

基礎看護学研究室
学内講師

https://researchmap.jp/sonido

研究内容と実践活動

血液透析患者さんのシャント血管の異常について、その血流音から早期に発見し、看護に生かすための方法を検討しています。

産学連携の可能性

血管やその他の組織の異常について、その構造を超音波装置などを用いて可視化するとともに、異常時に発する生体音と関連づけるような研究協力が可能です。

がん患者のセルフケアに関する研究



堤　恒貴
TSUTSUMI Koki

小児看護学研究室
助手

https://researchmap.jp/tsutsumi-k

研究内容と実践活動

患者が手術後に感じる疼痛について、強度スケールに合わせて他の評価方法を用いる事で患者さんの自己報告（self-report）を助け、痛みを適切に他者が評価できる方法を検討しています。

産学連携の可能性

術後患者の疼痛評価について研究協力ができると思います。

骨代謝疾患の予防および難治性骨折の新規治療法開発



坪内 優太　　生体科学研究室
TSUBOUCHI Yuta　　学内講師
https://researchmap.jp/ytsubouchi

研究内容と実践活動

骨粗鬆症や脆弱性骨折は要介護率の増加につながる主な原因の一つであり，超高齢社会の本邦における喫緊の課題です。この社会課題に対し、これまで運動負荷や薬剤、栄養療法を併用し、骨粗鬆症に対する予防的効果の検討や難治性骨折の治癒促進に向けた基礎研究を進めてきました。現在は骨格筋電気刺激を用い、筋・骨ネットワークの観点から骨構造・強度の改善および骨折治癒促進を可能とする革新的アプローチの確立に向けた研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

慣性計測装置 (IMUs) を用いた動作解析を臨床で長期に渡り活用してきました。最近ではその技術を応用し、骨粗鬆症やサルコペニアの早期発見に向けたスクリーニングとして応用することを目指しています。上記はあくまで一例で、動作パターンを一つのバイオマーカーとして各種疾患のスクリーニングに活用したいと考えています。IMUや赤外線センサー等により得られた動作データを人工知能 (AI) 等で学習する仕組みの構築、この点に産学官連携の可能性があると考えています。

男性の育児休業に関する研究



徳丸　由布子　　母性看護学研究室
TOKUMARU Yuko　　助教
https://researchmap.jp/read0000

研究内容と実践活動

男性の育児休業に関する研究を行っています。育児・介護休業法の改正により産後パパ育休制度が創設されるなど、男性の育児休業取得を支える制度が整備されつつあります。育児休業を取得した男性がどのように過ごされているのか夫婦双方の視点から明らかにし、夫婦関係をより良好にする育児休業期間の実現に向けた支援のあり方を検討しています。母子とその家族が尊重され、幸せな育児期を過ごすことのできる社会の実現を目指しています。

産学連携の可能性

育児休業取得予定もしくは取得中の男性や御夫婦に向けた支援を行うことができます。

高齢者看護および看護教育に関する研究



中釜　英里佳
NAKAGAMA Erika
老年看護学研究室
学内講師
https://researchmap.jp/nakagama

研究内容と実践活動

高齢者への看護（急性期、慢性期、回復期、認知症）に関する研究、看護教育（看護教育制度、看護教育における自己調整学習、アクティブラーニング、看護学実習）に関する研究

産学連携の可能性

急性期にある対象（成人・高齢者）への看護、看護教育に関すること

周産期を中心に女性の健康への看護を研究しています



永松　いずみ
NAGAMATSU Izumi
母性看護学研究室
講師
https://researchmap.jp/123izumi

研究内容と実践活動

妊娠期から産褥期、さらにそれを控えた女性の健康増進にむけた看護の現状や課題の研究をしています。妊娠期に思いがけない出来事を経験した女性の看護や、産褥期、それ以降の排泄障害（尿失禁・便失禁）に関する妊娠との関連の実態や支援の課題についてなどに取り組んでいます。産後ケア事業におけるニーズの実態についても探求しています。さらにアドバンス助産師の更新制度に関する実態と課題の研究をしています。

産学連携の可能性

プレコンセプション、インターコンセプション、妊娠期～産褥期の女性への支援の向上に関心をもっています。産後尿失禁に関する研究を地域病院施設と共同で行っています。

救急・集中治療における家族支援、看護職のキャリア形成に関する研究



西開地　由美
NISHIKAICHI　Yumi

NP研究室
准教授

https://researchmap.jp/researchmap_1024

研究内容と実践活動

診療看護師（ＮＰ）の教育カリキュラムにおける、教育内容の向上を目指して、演習実習などの充実に努めています。また、診療看護師の活動の中心となるへき地や中山間地などの地域課題に関する研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

地方の過疎地域や無医地区などのでの課題に対して、診療看護師（NP）の能力を最大限に活用した、遠隔医療に係るオンライン診療や在宅医療の課題など、行政を含めた幅広い組織と協力して地域貢献できる研究をしていきたいと思います。

診療看護師（NP）の臨床的意思決定に関する研究



西田　裕子
NISHIDA Yuko

NP研究室
講師

https://researchmap.jp/yu-kon

研究内容と実践活動

診療看護師（NP）がどのように考えながら実践しているかについて調査研究しています。今後はそれらに影響する要因について取り組む予定です。それらをもとに診療看護師（NP）への教育への活用を検討予定です。

産学連携の可能性

看護師の思考や判断を向上・育成するためのツールの開発など

臨床試験の統計に関する支援や方法論の研究



野津　昭文
NOTSU Akihumi
健康情報科学研究室
准教授
https://researchmap.jp/lib140po

研究内容と実践活動

臨床試験の方法論や因果推論を研究しています。がん臨床試験を行う研究グループに試験統計家して参加して、試験の計画立案、統計解析、報告支援に従事しております。

産学連携の可能性

製品の安全性や有効性を評価するための臨床試験を行う場合に、試験統計家として、評価項目の選定、症例数設計、統計解析、結果の報告支援を行うことができます。

妊産婦用全機能一体型の骨盤矯正アンダーウェア開発



濵　耕子
HAMA Kouko
母性看護学研究室
教授
https://researchmap.jp/read0117769

研究内容と実践活動

過去に2週間の継続した骨盤ベルト付きの上半身アンダーウェア（試作品）着用によって、未出産で健康な女性にうなじの「こり」や腰痛の軽減や同部位の血流改善を認めています。今後は妊産婦を対象に妊娠期や産後の補整下着としての有用可能性を検討していきます。

産学連携の可能性

将来的には、業者のお力をお借りしながら試作品の機能評価を経て、妊婦や産後女性への腹帯としての安全性を保ち、幅広い体型変化や不調に対応できる一体型のアンダーウェアの製品化を目指しています。

社会貢献としては、これから出産を控える若い学生や地域住民など幅ひろい対象に、着用体験を通じて姿勢を整えたり、産前産後の身体の変化に関心を持つ場を提供していきます。

骨分化の機序解明



濱中　良志　　生体科学研究室

HAMANAKA Ryoji　　教授

https://researchmap.jp/read0185487/

研究内容と実践活動

　樹立された骨芽細胞を用いて、分子生物学的に骨への分化を促進する機序を解明していきます。

産学連携の可能性

　骨芽細胞の骨分化系を用いて、促進する効果のある物質のスクリーニングをしていきます。

マイナス1歳からの皮膚を科学し、Well-beingな未来へ！



樋口 幸　　助産学研究室

HIGUCHI Sachi　　教授

https://researchmap.jp/hi381103

研究内容と実践活動

　日本の少子高齢化の進行による人口減少の加速は深刻な問題で、社会の活力を維持するためには次世代を担う若者や子育て世代の女性など、誰もが長く健康に活躍できるWell-beingな社会の実現が求められています。赤ちゃんの肌にトラブルがあるとアレルギー疾患の発症リスクが高くなるだけでなく、養育者の育児ストレス要因になることが分かっています。そのため、赤ちゃんのお肌を健康に保つケア方法を、胎児期～生まれた後の環境要因に着目して研究しています。

産学連携の可能性

・皮膚バリア機能や皮膚組織への影響評価などの研究協力や支援が可能です。
・周産期ケアや育児に関する研究・教育の相談にも応じることができます。

妊産婦のレジリエンスに関する研究



姫野　綾
HIMENO Aya
助産学研究室
講師

https://researchmap.jp/himeno

研究内容と実践活動

産後うつに陥る女性とそうでない女性にはどんな違いがあるのか関心を抱き、妊婦のレジリエンスに関する調査を実施しています。

産学連携の可能性

妊娠期から産後の女性を対象とした研究調査を実施していきたいと考えています。

中小規模病院等の看護管理者を支援する研究



福田　広美
FUKUDA Hiromi
看護管理学研究室
教授

https://researchmap.jp/read0197866

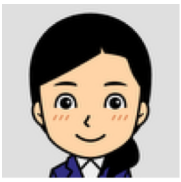
研究内容と実践活動

看護管理者は質の高い医療や看護を提供するうえで大切な役割を担います。平成29年から大分県、大分県看護協会、大分大学の関係者の皆様と協力しながら、地域の看護ネットワークに参加される看護管理者の皆様を対象に支援活動を行っています。

産学連携の可能性

・中小規模病院等の看護管理者の実践に関する研究に協力が可能です。

精神科領域で働く看護職者のウェルビーイング



外池　桃子
HOKAIKE Momoko
精神看護学研究室
助手

https://researchmap.jp/hokaike-m

研究内容と実践活動

精神科急性期病棟で働く看護師が現場で抱える困難感が少なく、患者さんにとってもよりよい看護の方法について検討していきます。

産学連携の可能性

精神疾患を抱える方と関わる看護職者のウェルビーイングについて研究をしていきます。

性差に着目した向老期世代の認知症予防行動に関する研究



堀　裕子
HORI Hiroko
老年看護学研究室
准教授

https://researchmap.jp/25-25-hi

研究内容と実践活動

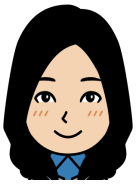
認知症は、アルツハイマー型では女性、脳血管性では男性に多いという性差が存在します。また、若年期からの予防が推奨されていますが、生産年齢層にあたるこの時期は多忙を極め、予防行動の実践は容易ではありません。そこで私は、身体的不調や加齢を意識し始める人生の転換期、「向老期」に注目しました。退職を控えたこの世代が性差を正しく理解し、自身のリスクを認識して予防に取り組むことは、健康寿命の延伸において重要な鍵となります。

現在、私は「性差に着目した向老期における認知症予防行動～定年退職前の健康教育の構築に向けて～」をテーマに、実効性の高い支援を目指した研究に取り組んでいます。

産学連携の可能性

認知症予防に関心のある方に向けての認知症予防・理解促進のための講座の実施、認知症予防の健康教室・認知症サポーター養成での支援、またエイジングや高齢者に関連した調査研究等が可能です。

放射線皮膚炎に対するスキンケア効果の研究



水田 恵子　　成人看護学研究室
MIZUTA Keiko　　助教
https://researchmap.jp/K.iwashita

研究内容と実践活動

放射線治療の副作用として生じる、放射線皮膚炎に対するスキンケア（保湿、洗浄）の効果を実験的に検証しています。

産学連携の可能性

放射線看護に関するエビデンス構築につなげるための生物実験や、研究指導が可能です。

看護情報（データの利活用やICT健康教育）に関する研究



三苫　美和　　看護アセスメント学研究室
MITOMA Miwa　　准教授
https://researchmap.jp/mitoma

研究内容と実践活動

看護情報学に焦点を当てた研究に取り組んでいます。電子カルテに集積された記録を分析し、医療専門職の知識を強化する研究を行っています。また、遠隔看護の普及を目指し、ICTを活用した健康教育を地域で実践するとともに、その効果検証を行う研究を進めています。

産学連携の可能性

①電子カルテの記録を活用し、臨床の質向上につながる教育の実装を目指します。
②ICTを活用した遠隔看護による健康増進支援モデルを構築し、地域格差を超えた持続可能な健康支援の実装を通じて、地域住民の生活の質（QOL）の向上に貢献することを目指します。

英語イントネーションと英文学の研究



宮内　信治
MIYAUCHI Shinji
言語学研究室
准教授

https://researchmap.jp/read0128267

研究内容と実践活動

ジェイン・オースティンを中心とした英文学の文体に着目し、そこに見られる意味内容と音読に際して現れるイントネーションとの関係や機能を研究しています。

産学連携の可能性

英語の発音を中心にした、プレゼンテーションの改善指導など。

高齢者自殺予防に関する包括支援の研究



持田　恵理
MOCHIDA Eri
社会看護学研究室
教授

https://researchmap.jp/mochidaeri

研究内容と実践活動

これまで、行政保健師という立場から、その地域の特有の課題解決のため、外国にルーツを持つ小児の発達の遅れと発達障害に関する早期発見・早期支援や高齢者の自殺予防対策に関しての研究を行ってきました。地域の課題解決のためには、その地域の課題の特定と色々な立場の方々の協力と連携が必要になります。皆で地域を良くしていく方略（研究）について探求しています。

産学連携の可能性

行政保健師や地域看護専門看護師として、行政の保健師ばかりでなく、ケアマネや地域包括支援センター、施設職員等地域のケアスタッフへのコンサルテーションを行ってきた経験があります。支援困難な事例やケアの質向上のための支援について共に考えていけるようコンサルテーション、研修、研究についてご相談に応じます。

中小規模病院の看護管理者と地域の看護ネットワーク



矢野　亜紀子　　看護管理学研究室
YANO Akiko　　助教
https://researchmap.jp/yano-a

研究内容と実践活動

地域の中で、看護管理者ら（病院の看護部長、師長など）が作る「地域の看護ネットワーク」について研究しています。また、中小規模病院の看護管理者のマネジメント行動が、スタッフのチームワークや職務満足、離職とどのように関係するかを研究しています。

産学連携の可能性

全国の中小規模病院にご協力いただき、質問紙調査を実施しました。
→看護職、看護管理者を対象とする調査の企画、実施、調査結果の分析など
民間企業で企画マーケティング、広告企画の経験があります。
→医療・看護・健康などに関するコミュニケーションデザイン、広報ﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ、ツール開発など

環境因子の雄性生殖機能への影響に関する研究



吉田　成一　　生体反応学研究室
YOSHIDA Seiichi　　教授
https://researchmap.jp/syoshida_oitanhs/

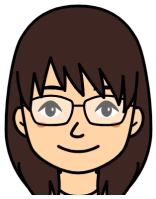
研究内容と実践活動

研究テーマと簡単な内容：新型たばこ（加熱式たばこ・電子たばこ）や大気中に存在する粒子状物質などによる、雄性生殖系への影響、胎児期曝露による次世代影響について、病理学・分子生物学的手法などを用い研究しています。また、Web調査手法を用いた実態調査も行っています。

産学連携の可能性

in vitro細胞培養系を用い、雄性生殖毒性やアレルギー増悪作用、アレルギー改善作用を有するスクリーニング系を開発し、食品や各種環境因子の有する作用を明らかにする研究を行いました。新しい製品の雄性生殖系、免疫系などへの影響評価を行うことが可能です。

臨床における看護倫理に関する研究



吉田　嘉子
YOSHIDA Yoshiko
成人看護学研究室
助教
https://researchmap.jp/yoyoshida

研究内容と実践活動

私は、急性期医療の現場で倫理調整にかかわる多職種チームに所属し活動してきました。そのため、患者の意思決定や、医療者の倫理的ジレンマについて研究をしてまいりたいと思います。

産学連携の可能性

臨床現場での看護倫理に関する研修やスタッフサポートなど協力ができます。

子ども、保護者、学校に係る方との協働



吉村　匠平
YOSHIMURA Shohei
人間関係学研究室
教授
https://researchmap.jp/read0109825

研究内容と実践活動

子ども園、小学校、中学校を対象に、学校の各種支援ニーズに応じたサポートを行っています。人間関係づくりプログラム（構成的エンカウンターを中心にした）の実施、年間計画の策定。各種心理アセスメント（wiscV、読字スクリーニング検査）の実施、教諭、保護者、児童生徒への結果説明。

産学連携の可能性

学校、子ども園の先生方対象のコンサルテーション、保護者対象のカウンセリング。